

第 16 回世界湖沼会議 (WLC16)



湖沼生態系の健全性と回復力：

生物多様性と種の絶滅の危機

2016年11月7日(月)～11日(金)

於 インドネシア共和国 バリ島

最終案内書

主催：インドネシア共和国環境林業省ほか



Ministry of Environment and Forestry



Indonesian Institute of Sciences



Ministry of Public Works and Housing



Udayana University



International Lake Environment
Committee Foundation

公式サイト: www.wlc16bali.org

* 日本語の情報は ILEC サイトにて随時更新：www.ilec.or.jp/jp/wlc

お問い合わせ：secretary@wlc16bali.com (現地事務局)

wlc16@ilec.or.jp (ILEC 事務局：日本語対応可)

目次

I.	はじめに	4
II.	会議テーマと参加者	4
III.	主催者	5
IV.	会期と会場	5
V.	参加者の現地受付	6
VI.	予定されているプログラム	6
VII.	政策対話	10
VIII.	分科会トピック	12
IX.	フィールドトリップ	13
X.	オープンツアー	16
XI.	会議参加登録	18
XII.	宿泊先	18
XIII.	会場へのアクセス	18
XIV.	審査通過アブストラクト	18
XV.	口頭/ポスター発表の準備要項	19
XVI.	エキシビション	20
XVII.	プログラム委員会	21

I. はじめに

湖沼は国民の生活とは切り離すことのできない、インドネシア社会においても欠かせないもののひとつです。生活に必要なものを供給してくれるだけでなく、この国の文化を育む上でも大事な役を担っています。こうした重要性は十分に認識されているにもかかわらず、国中のほとんどの湖沼環境が深刻な状況に瀕しています。

悪化した湖沼生態系を甦らせる必要があるという認識は、国中のあらゆるレベルで高まってきています。なかでも特筆すべきは、湖沼の持続可能な管理について同国政府 9 省の大臣が合意した公約です。これにより、すべての利害関係者が湖沼の持続可能な利用と保全に向けた湖沼生態系の調和を取り戻すため、共に行動を起こすきっかけが生まれました。この目的を達成するために、2011 年には湖沼復興の全体構想が形成されました。現在、国内の 15 湖沼が国家優先湖沼として指定されています。

湖沼生態系の持続可能性の大切さは、多くの人々と機関がきわめて重要な地球規模の課題であるということ広く認識しています。このことにおいて、とりわけ世界湖沼会議（WLC）は、これまで世界中の市民、産業関係者、政府官僚そして科学者を含めた広範囲の利害関係者が一堂に会し、共通する懸念や課題について考えるといったユニークなフォーラムとして開催を重ねてきました。1984 年の初回開催以来、アルゼンチン、中国、デンマーク、ハンガリー、インド、イタリア、日本、ケニア、そしてアメリカと、世界各国において 15 回開かれています。滋賀県に拠点を置く公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）が、その設立年である 1986 年より各回の共催者として実施を促進してきました。そして今年、東南アジアでは初めての WLC となる第 16 回目の会議を主催することを、インドネシアは大変光栄に思います。2016 年 11 月 7～11 日に、バリ島のディスカバリー・カルティカ・プラザホテルにて皆さまにお会いできることを主催者一同楽しみにしております。

II. 会議テーマと参加者

WLC16 の会議テーマは「湖沼生態系の健全性と回復力：生物多様性と種の絶滅の危機」です。世界各地の研究者、学術関係者、政府官僚、非政府組織（NGO）職員、地域の代表者ほか利害関係者から、延べ 700～1,000 人の出席を想定しています。予め投稿いただいたアブストラクトは、会議の科学委員会の審査を経て会期中のさまざまな分科会で発表していただくこととなります。

III. 主催者

WLC16 はインドネシア共和国の環境林業省、インドネシア科学院（LIPI）、公共事業国民住宅省が主催し、プログラムの企画と運営を行います。また、日本の公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）の事務局がインドネシア主催機関との連携によりプログラムの準備を行い、そして ILEC 科学委員会が最新のグローバルな協議事項の策定において助言をしています。

IV. 会期と会場

会期： 2016 年 11 月 7 日（月）～11 日（金）

会場： ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル（バリ島・クタ）

（7, 11 日は野外プログラムにつき、ディスカバリーホテルが会場となるのは、8～10 日です）



世界的な観光地の宝石ともいえるバリは、訪れる者に人生の調和を与える、とされています。これは、この島が広大なビーチと目を見張るような山々の景色、そして何よりも驚くべき文化的遺産に恵まれているからこそ得られた評判でしょう。これまでもバリ島では多様な国際会議が開催されてきましたので、本会議参加者の有意義な滞在を保証します。滞在中は、島の美しい景色を堪能いただけるだけでなく、目がくらむような芸術作品展覧会や文化パフォーマンスを多数お楽しみいただけます。例えば、有名なレゴン舞踊、ケチャとトランスダンス、ワヤン・クリ（影絵）、ラーマ・ヤナとバロンは必見です。



ディスカバリー・カルティカ・プラザホテルは、ングラ・ライ国際空港の北に位置するバリ島クタ内の海辺にあります。318 の近代的な客室、スイート、ヴィラがあり、宿泊客は快適な滞在と、国際的なサービス水準を満たしたバリのホスピタリティを体験いただけます。当ホテルには、7 つのレストランとバー、会議室 9 部屋、スパ、フィットネスセンター、彫刻された広大なプール、ヘリポートを備えており、観光とビジネスいずれの目的でお越しのお客様にも対応可能です。また、ディスカバリー・ショッピングモールが隣接しているほか、クタの中心部まで徒歩 10 分という便利な立地となっております。

V. 参加者の現地受付

本会議の参加登録をいただきました皆さまは、下記期間中、会場内に開設されている現地登録デスクにて受付をお済ませください：

日付	開設時間
11月 6日 (日)	8:00～19:00
11月 7日 (月)	8:00～19:00
11月 8日 (火)	7:00～17:00
11月 9日 (水)	8:00～17:00
11月 10日 (木)	8:00～12:00

VI. 予定されているプログラム

会期中に予定されている主なプログラムの最新情報は、以下の通りです：

	6-Nov	7-Nov	8-Nov		9-Nov		10-Nov		11-Nov				
8:00		フィールド トリップ (バリ島内)	開会式 (Ballroom)		基調講演 (Ballroom)		基調講演 (Ballroom)		オープン ツアー (10月下旬 ～受付開始 予定)				
9:00													
10:00							分科会 (Room A,B,C,D)	国家政策 フォーラム2 (Ballroom)		分科会 (Room A,B,C,D)	分科会:ILBM (Ballroom)		
11:00					昼食		昼食						
12:00							昼食						
13:00													
14:00			分科会 (Room A,B,C,D)		国家政策 フォーラム1 (Ballroom)	分科会 (Room A,B,C,D)	国際政策 フォーラム (Ballroom)	閉会式 (Ballroom)					
15:00													
16:00							覚書調印式						
17:00					トバ湖専門家 会議 (Room c)								
18:00													
19:00													
20:00	歓迎 レセプション					晩餐会							
21:00													
22:00													
エキシビション													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; background-color: #f8d7da;">関係者のみ</td> <td style="width: 80%;"></td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d4edda;">要事前申込(10/15)</td> <td style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">8日～10日のプログラム詳細は、次ページ以降をご覧ください。</td> </tr> </table>										関係者のみ		要事前申込(10/15)	8日～10日のプログラム詳細は、次ページ以降をご覧ください。
関係者のみ													
要事前申込(10/15)	8日～10日のプログラム詳細は、次ページ以降をご覧ください。												

11月8日(火)

開会式: 8:00 ~ 13:15

於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル Kharisma Ballroom

時間	プログラム
08.00 - 08.50	開場・受付
08.50 - 09.00	歓迎の舞踊
09.00 - 09.05	開会アナウンス
09.05 - 09.10	国歌斉唱
09.10 - 09.15	お祈り
09.15 - 09.25	インドネシア湖沼の映像上映
09.25 - 09.35	子ども交流事業代表者からのスピーチ (インドネシア・日本)
09.35 - 09.45	組織委員長による開会の辞: 環境林業省流域保全森林管理局長 Hilman Nugroho
09.45 - 09.55	開会の辞: バリ地方知事 Made Mangku Pastika
09.55 - 10.05	開会の辞: 公益財団法人国際湖沼環境委員会 理事長 浜中 裕徳
10.05 - 10.15	合唱団によるパフォーマンス: Janger and Pohon Cintaku
10.15 - 10.25	開会挨拶: インドネシア科学院長 Iskandar Zulkarnain
10.25 - 10.35	開会挨拶: インドネシア公共事業住宅大臣 Basuki Hadimuljono
10.35 - 10.40	環境林業大臣 Siti Nurbaya による現地コミュニティおよび参加者への母樹贈呈
10.40 - 11.00	開会挨拶: 環境林業大臣 Siti Nurbaya 次いで、現地バリの伝統的な開会の儀式 (Kulkul) と舞踊(Cenderawasih Dance)
11.00 - 11.05	休憩
11.05 - 11.20	基調講演 1: インドネシア科学院 Fauzan Ali
11.20 - 11.35	基調講演 2: 公益財団法人国際湖沼環境委員会 科学委員長 Walter Rast
11.35 - 11.50	基調講演 3: インドネシア APCE 所長 Ignasius Sutapa (調整中)
11.50 - 12.05	基調講演 4: 滋賀県知事 三日月 大造
12.05 - 13.10	昼食

開会後の主賓 (VIP) プログラム

時間	プログラム
11.00 - 11.30	エキシビジョン会場訪問
11.30 - 12.00	記者会見
12.00 - 13.10	昼食

口頭分科会

次いで、午後は 4 分科会を開催 (Room A, B, C and D, 13.30 - 18.00)

11月9日(水)

基調講演 於 Kharisma Ballroom

時間	講演者	講演テーマ
08.00 - 08.20	Prof. Soontak Lee	Sustainable Water Management with AP-HELP and IWRM
08.20 - 08.40	Prof. David Hamilton	Lake Restoration in New Zealand, with Implications for Lakes Globally

ポスターセッション 1

時間	プログラム
08.40 - 09.10	ポスターセッションの全ての発表ポスターが Ballroom の外に展示されます (廊下付近)
09.10 - 09.25	コーヒーブレイク

口頭分科会

終日、4 分科会を開催 (Room A, B, C and D, 9.25 - 16.30)

※ 昼食は 12.00 - 13.30

晚餐会: 19:00 ~ 21:35

於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル ビーチガーデン

時間	プログラム
19.00 - 19.15	来場者へのおもてなし
19.15 - 19.20	開会アナウンス
19.20 - 19.30	開会挨拶: インドネシア公共事業国民住宅省 水資源局長 Imam Santoso
19.30 - 19.40	開会挨拶: バリ地方知事 Made Mangku Pastika
19.40 - 20.00	スピーチといばらき霞ヶ浦賞授与: 茨城県知事 橋本 昌
20.00 - 21.30	夕食と伝統舞踊のパフォーマンス
21.30 - 21.35	閉会アナウンス

11月10日(木)

基調講演 於 Kharisma Ballroom

時間	講演者	講演テーマ
08.00 - 08.20	福島 武彦 教授	Lake environments under stress and their restoration challenges
08.20 - 08.40	Mr. Nazir Foead	調整中

ポスターセッション2

時間	プログラム
08.40 - 09.10	ポスターセッションの全ての発表ポスターが Ballroom の外に展示されます (廊下付近)
09.10 - 09.25	コーヒーブレイク

口頭分科会

午前中に4分科会を開催 (Room A, B, C and D, 9.25 - 12.00)

※ 昼食は 12.00 - 13.30

閉会式: 13:30 ~ 15:30

於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル Kharisma Ballroom

時間	プログラム
13.30 - 13.45	インドネシア科学委員長による会期中の議論総括: インドネシア科学院 Gadis Sri Haryani
13.45 - 14.00	インドネシア政策対話の総括: インドネシア環境林業省 流域保全森林管理局長 Hilman Nugroho
14.00 - 14.30	バリ宣言: 公益財団法人国際湖沼環境委員会 副理事長 中村 正久 による背景説明、草案発表、出席者全体討議と意見反映
14.30 - 14.50	第17回世界湖沼会議開催宣言: 茨城県知事 橋本 昌
14.50 - 15.00	閉会の辞: 公益財団法人国際湖沼環境委員会 理事長 浜中 裕徳
15.00 - 15.10	インドネシア科学院 地球科副服部門長 Zainal Arifin による閉会の辞
15.10 - 15.20	記念品贈呈
15.20 - 15.30	記念撮影

VII. 政策対話

会期中には下記の政策対話が予定されています。詳細は下記の通りです。

国家政策フォーラム 第1部 政策改善: 11月8日(火) 13:30 ~ 15:30 於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル Kharisma Ballroom	
時間	プログラム
13.35 – 15.35	Session I: 議長： 環境林業大臣付上席顧問 発表者： «インドネシア» 1. ゴロンタロ地方長官 (リンボト湖管理について) 2. 環境林業省 流域保全森林管理局長 (湖沼保全の課題について) 3. 公共事業国民住宅省 水資源局長 (湖沼管理のインフラについて) 4. 環境林業省 汚染退化統制局長 (水質汚染制御について) 5. 環境林業省 天然資源・生態系保全局長 (生態系保全について) 6. 農地・空間計画省 空間計画局長 (空間計画における湖沼生態系保全について) «日本» 7. 環境省 水・大気環境局水環境課長 (湖沼管理および湖沼保全・統制・回復における国家政策について)
時間	プログラム
15.35 – 17.35	Session II: 議長： 環境林業大臣付上席顧問 発表者： «インドネシア» 1. 海洋水産省国家開発計画庁次官 (湖沼管理のための資金戦略について) 2. 環境林業省家庭貴県廃棄物局長 (廃棄物管理について) 3. 観光産省 観光産業・観光地開発次官 (湖沼観光地の開発について) 4. 内務省 地域開発局長 (湖沼管理における永年規制について) 5. 海洋水産省 水産養殖局長 (水産養殖における湖沼利用について) 6. 海事担当調省 天然資源サービス調整次官 (湖沼管理における認可について) «日本» 7. 滋賀県 琵琶湖環境部技監 (湖沼管理とアクションにおける県の取組)

B. 国家政策フォーラム 第2部 コミュニティ参加: 11月9日(水) 9:40 ~ 12:10

於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル Kharisma Ballroom

時間	プログラム
09.40 – 12.10	<p>Session III:</p> <p>議長： インドネシア国際湿地保全連合 Dr. Nyoman Suryadiputera</p> <p>発表者：</p> <p>「インドネシア」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 林業環境パートナーシップ 局長 (コミュニティのエンパワーメントにおける政策について) 2. 株式会社 Aqua Danone 取締役 (湧水保全のプログラムについて) 3. 株式会社全国発電社 取締役 (水力発電の持続可能な利用について) 4. 株式会社 Krakatau Tirta 産業 取締役 (水利用における環境サービスへの支払について) 5. バリの地方のコミュニティ代表 (湖沼保全におけるコミュニティ・プログラムについて) 6. バンテン地方のコミュニティ代表 NP Rahadian (ラワダナウ湖の地域に根差した保全について) <p>「日本」</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 公益財団法人国際湖沼環境委員会 事務局長 / 元 滋賀県 琵琶湖環境部技監 (啓発戦略とプログラムについて) 8. 滋賀県の住民団体代表 びわこ豊穰の郷 (琵琶湖保全におけるコミュニティの役割について) 9. 茨城県の住民団体代表 霞ヶ浦市民協会 (霞ヶ浦保全におけるコミュニティの役割について)

C. 国際政策フォーラム: 11月9日(水) 13:30 ~ 16:30

テーマ: 湖沼管理におけるネットワークと協力のプラットフォーム開発について

於 ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル Kharisma Ballroom

時間	プログラム
13.30 - 13.35	議長によるイントロダクション
13.35 - 16.00	<p>基調発表と円卓討論議論及び集約 主な基調発表者及び円卓討論者:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● インド: 環境森林気候変動省 顧問 Shri Brijesh Sikka ● インドネシア: 公共事業国民住宅省 資源利用局長 Agus Suprpto ● 日本: 環境省 水・大気環境局水環境課長 渡辺康正 ● ケニア: ナクル郡環境資源公使 Richard Kipsang ● マレーシア: プトラ大学教授・マレーシア科学アカデミー Fatimah Md. Yusoff ● ネパール: 民間航空・観光省、国家湖沼保全開発委員会 事務局長 Lank Bahadur Shahi ● 中華人民共和国: 中国科学院・Zhengyu Hu ● セネガル: セネガル大学教授・セネガル科学アカデミー Salif Diop ● アジア開発銀行: 上席水資源専門官 Yoshiaki Kobayashi ● 国連環境計画: 早期警戒評価部プログラムオフィサー Joana Akrofi ● トンレサップ湖/ラグナ湖/チリカ湖関係者、ILEC 科学委員会委員、他オブザーバーなど

VIII. 分科会トピック

現在、9トピックの分科会、3トピックの特別分科会の開催を予定しております:

【分科会】	8. 人造湖
1. 気候変動と水の危機	9. 陸水学
2. Lake under stress	
3. 湖沼管理と政策	【特別分科会】
4. 水に関する教育、エコツーリズム、文化	1. ハートウェア
5. データベース	2. 統合的湖沼流域管理 (ILBM)
6. 生物多様性と保全	3. インドネシア・スマトラの土地利用制度管理
7. エコテクノロジーとエコハイδροロジー	

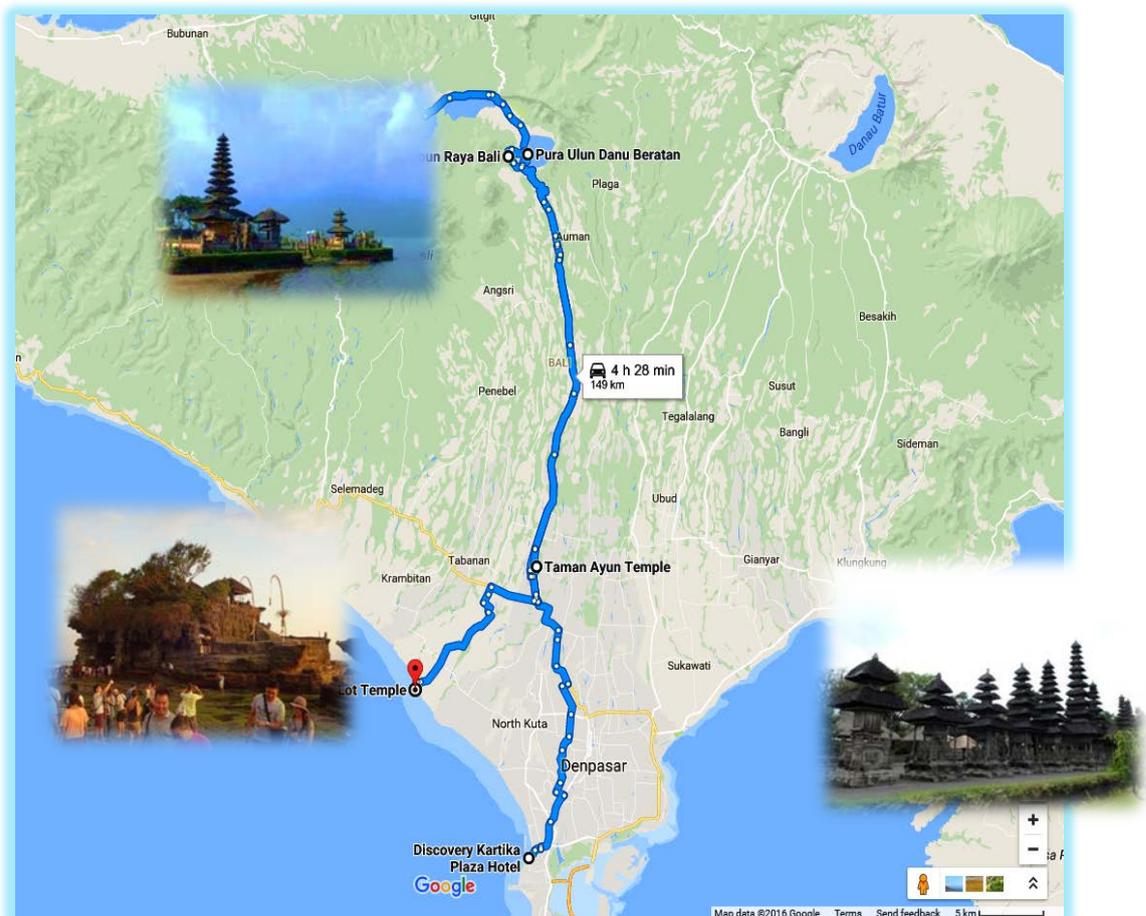
IX. フィールドトリップ

11月7日(月)には、バリ島の風景や習慣、文化をお楽しみいただける、終日催行のフィールドトリップをご用意しました。行先は下記の通りです。申込みは10月15日付で締め切りいたしました。

« 行先 »

8:00	ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル出発
9:00~9:45	タマンアユン寺院
10:45~11:45	ブヤン湖(現地コミュニティ関係者と共に植樹)
12:00~13:45	バリ植物園(こちらで昼食休憩)
14:00~15:00	ウルンダヌ寺院とプラタン湖
16:30~18:30	タナロット寺院
20:00	ディスカバリー・カルティカ・プラザホテル着・解散

参加料(外国人) : USD50



バリが持つ美の核心に触れていただける各目的地は以下の通りです：

1. タマンアユン寺院



タマンアユン寺院は、バドゥン州ムンウィ地区にあり、掘割に囲まれた寺院と庭園との複合体です。タマンアユンという名前には美しい庭園という意味があり、バリ島で最も美しい寺院の一つとみなされています。ウブドの南西約8キロメートル、デンパサールの北西18キロメートルにあるムンウィという村からほど近い、木々と池に囲まれた美しい公園内にあります。1634年にムンウィの王イ・グスティ・アグン・プトゥが建立したいわゆる一族の寺院とされるもので、ムンウィ王朝の神格化された祖先や他の寺院の重要な神々が祀られています。ヘンク・スクテ・ノードルトは「ムンウィ国」という本の中で、この寺院が1750年に修復されたと書いています。掘割で囲まれており、チャンディブントルと呼ばれる装飾を施した門が、唯一寺院と外側の庭をつないでいます。この門を通過してまっすぐな舗装道を、手入れの行き届いた庭園を横目に進むと、中心に方形の池と泉が見えます。この泉には9つの水の吹き出し口があります。内4つは東西南北に、他の4つはその間の方角に、残り1つは中心にあり、バリヒンドゥー教の9神デワ・ナワ・サンガを象徴しているのです。小道をさらに進むと2つ目のチャンディブントルがあり、より高い場所にあるジャバ・トウンガーという2つ目の中庭に出ます。さらに3番目の中庭、ジャバ・ジェロは最も神聖なものとされています。非常に重要な霊廟があり、5層、7層、9層、11層のメル（塔）が並んでいます。ここは、重要な宗教儀式であるオダランのような期間以外は入ることができません。オダランでは寺院の落成が祝われます。タマンアユン寺院のオダランは210日毎のアンガラ・カシと呼ばれるパウコン歴のメダングシア週の火曜日に行われ、儀式は数日続きます。

2. ブヤン湖



ブヤン湖は 336 ヘクタールあり、周囲のコミュニティに水を供給しています。湖岸にはキャンプ地があり、保護地区となっています。近くには村や農業地区があり、廃物やごみが排出されます。20 年前から湖周辺の住民や農業廃棄物により汚染され、富栄養化が起きました。近年は富栄養化が悪化し、水草が表面積の 3 パーセントにも及ぶようになりました。沈泥化するにつれ水草の除去は難しくなっています。

3. ウルンダヌ寺院とブラタン湖



ウルンダヌ寺院はバリ島の主要なシバ神の寺院、また水の寺院として知られています。ブドゥグル近くの山にあるブラタン湖の湖岸にあり、湖からの流出域全体に水を供給し、下流域に沿ってスバックと呼ばれるそれぞれの灌漑共同体に固有の多くの小さな寺院があります。1633 年に建立され、バリの水、湖、川の女神であるデウエイ・ダヌへのセレモニーを行う場所として使われていますが、これはバリ中央部においてブラタン湖が灌漑の主要な源となっているからです。11 層のペリンギ・メヌのシバ神に捧げられたものであり、妃であるパールヴァティ・ブダの像もこの寺院の中にあります。海拔 1,200 メートルの冷熱帯気候地帯にあり、この地の肥沃をもたらす「聖なる山の湖」として知られています。

4. バリ植物園



バリ植物園はインドネシア最大の植物園であり、デンパサールから車で北へ 90 分のところにあるバリ中心部ブドゥグルと呼ばれる山岳地域にあります。1959 年 7 月 15 日に開園し、ブラタン湖やタパック丘の斜面のウルンダヌ寺院を見下ろす海拔 1,300m に位置しています。植物学研究、保全、教育やレクリエーションの中心となっており、インドネシア科学院によって運営されています。面積は 157.5 ヘクタールあり、日中は 17~25°C、夜は 10~15°C となります。平均湿度は 70~90 パーセントです。植物園は東インドネシアの山岳地域の様々な種のなかから、2,300 種に属する植物の 18,000 分類群の保護区となっています。

5. タナロット



タナロットは、バリ島のデンパサールから約 20 キロメートル地点のタナバンにある岩石層です。巡礼寺タナロットは観光客の撮影スポット、文化的で異国情緒のある場所として人気があります。海の潮が長年に渡り形成した沖の巨大な岩の上に佇む寺院は、16 世紀の高僧ダン・ヒャン・ニラルタの依頼による建立とされています。彼は、南海岸沿いを旅していた際に、岩の島の美しいありさまに惹かれ、そこで休憩しました。彼を見つけた数人の漁師はニラルタに贈り物をし、彼はこの小さな島で一夜を過ごしました。その後、彼はバリの海の神を崇拝すべき神聖な場所として、漁師たちに岩の上に神社を建てるように言い伝えました。主な守護神は、海の神や海のパワーであるデワ・バルナやバタラ・セガラであるほか、ニラルタ自身もここに祀られています。タナロット寺院は建立後、何世紀にも渡りバリの神話の一部となってきました。この寺院を含めバリの海岸には 7 つの海の寺院があり、いずれも次の寺院と同じ視界に入る位置に建ち、南西海岸沿いに連なって見えるようになっています。タナロットはバリの神話に加え、大いにヒンドゥー教の影響を受けていました。岩の島の礎では、毒ウミヘビが悪霊や侵入者から寺を守っていると信じられています。この巨大なウミヘビは、ニラルタの肩帯からつくられたという伝説があります。1980 年には、岩表面が崩れ始め神殿の外周や内部が崩壊の危機に晒されましたが、今ではこの歴史的な寺院はしっかりと保全されています。

X. オープンツアー

11 月 11 日（金）には、3 種のオープンツアーが催行予定です。詳細は下記の通りです。

1. A コース（終日）

《行先》

- ウブド・モンキーフォレスト
- 象の洞窟（ゴア・ガジャ）
- ティルトウンブル寺院
- キンタマーニ（こちらで昼食休憩）

※ 最少催行人数：6 名

発着場所、時間等は現地にてご確認ください。

参加料：Rp. 550.000 または USD 44



ウブド・モンキーフォレスト



象の洞窟



ティルトウンブル寺院



キンタマーニ

2. Bコース (半日)

《行先》

- a. ガルーダ ウィスヌ
- b. ウルワツ (ケチャダンス)
- c. ジンバランでの夕食

※ 最少催行人数： 6名

発着場所、時間等は現地にてご確認ください。

参加料： Rp. 600.000 または USD 48



3. Cコース (半日)

《行先》

- a. ウブドの画廊
- b. ウブド・モンキーフォレスト
- c. ウブド王宮
- d. 棚田などの視察
- e. 昼食

※ 最少催行人数： 6名

発着場所、時間等は現地にてご確認ください。

参加料： Rp. 550.000 または USD 44



上記のツアー料金には、交通手段、ツアーガイド、行先のパンフレット、軽食、昼食および入場券の費用が含まれます。参加料のお支払いは、銀行振込または現地現金払いが可能です。

1. 銀行振込 (口座情報)

Bank: BNI

Branch Office: Renon

Account No.: 0468936424

Name: WLC16BALI

Swift Code: BNINIDJARNN

送金のお控えを予め下記まで E メールにてお送りください：

sucitayanthi.convexacts@gmail.com

2. 現地現金払い

前日 10 日 (木) までに会議参加者登録デスクにてお支払いください。

※ オープンツアーに関するご不明な点は、下記担当までお問い合わせください：

Ms. Putu Sucita Yanthy)

[\(sucitayanthi.convexacts@gmail.com\)](mailto:sucitayanthi.convexacts@gmail.com)

XI. 会議参加登録

会議参加登録は締め切りました。

XII. 宿泊先

会場周辺には多数のホテルやリゾートが立ち並んでいます。WLC16 公式サイトでは、会議会場まで徒歩 2~5 分の近隣の宿泊先をいくつかご紹介しております (www.wlc16bali.org/accomodation-hotels)。

予約等でサポートが必要な方は、現地事務局 (secretariat.convexacts@gmail.com) までお問い合わせください。

XIII. 会場へのアクセス

空路にて：

会場へのルートはいくつかの選択肢があります。最寄りの空港であるングラ・ライ国際空港へは、直行便、または航空会社によってはスカルノハッタ（ジャカルタ）国際空港を経由した乗り継ぎ便をご利用いただけます。空港到着後は公式のタクシーで会場までお越しください。会場までは約 3.1 km、10 分の道のりです。公式タクシーカウンターは到着ホールの外にあります（到着出口ゲートを出て右へ進んでください）。あるいは帰国されるまで各自で車やバイクを借りることもできます。www.baliairport.com/transportation/では、空港への行来に関するより詳しい情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

陸路および連絡船にて：

お近くの港からギリマヌク港まで連絡船をご利用後、そこから車かバスでお越しいただくことも可能です。会場までは 133km で 3 時間 37 分かかります。レンタカーに関しては下記 3 サイトをご参照ください：

www.anandatour.web.id/

www.bimasakticarrental.com

www.nurisrentcar.com/car-rental/

XIV. 審査通過アブストラクト

アブストラクト審査を通過した口頭/ポスター発表の一覧は、下記に掲載しております：

www.wlc16bali.org/announcement-of-selected-pape

また、分科会での口頭発表スケジュールは、www.wlc16bali.org/agenda にて確認ください。

XV. 口頭/ポスター発表の準備要項

口頭発表のプレゼンテーション・データは、2016年11月1日（火）までに現地事務局（secretary@wlc16bali.org）へ送付するか、現地での参加者登録の際にご提出ください。発表は下記のガイダンスに準じてください。

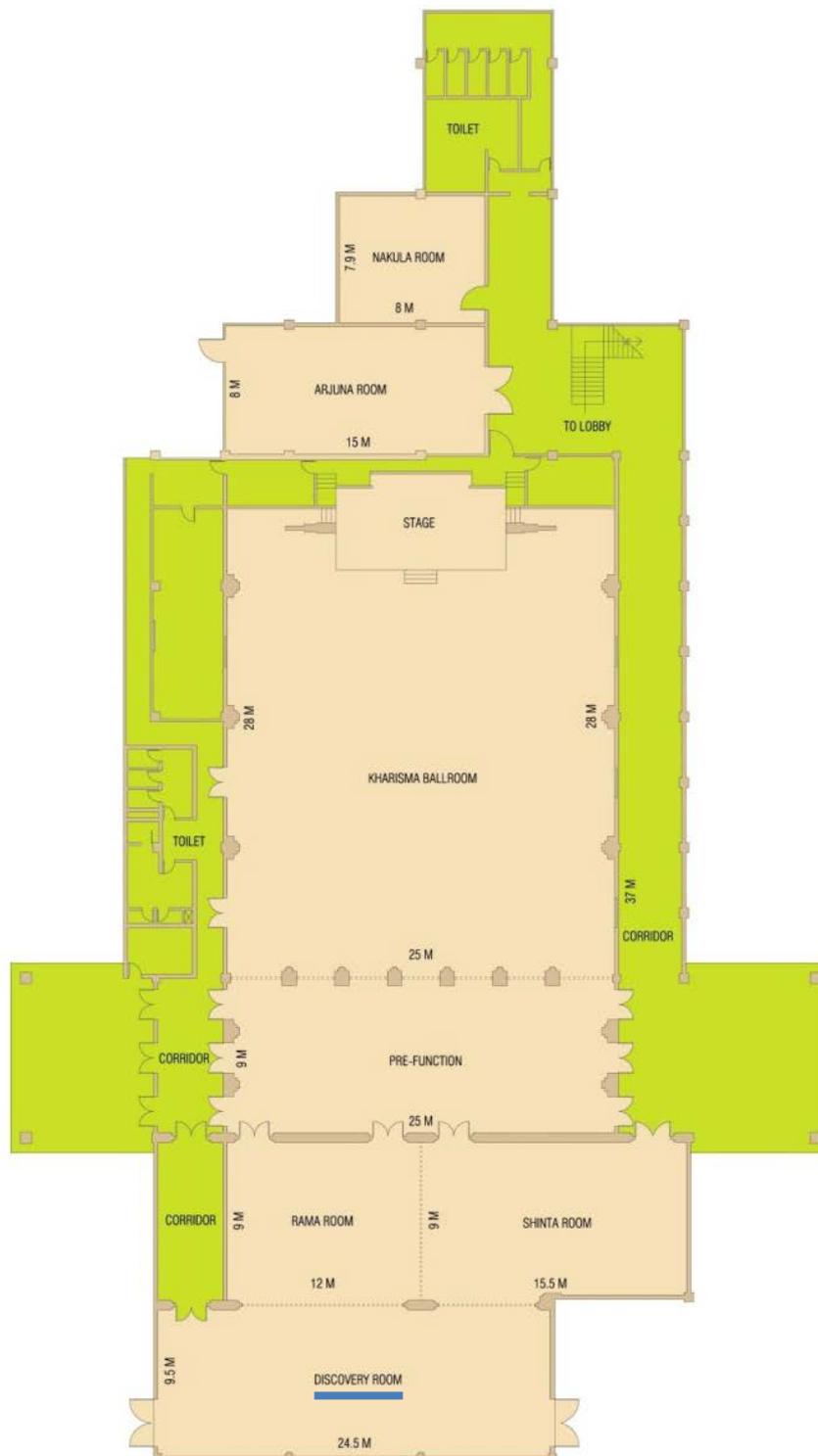
- 全ての口頭発表は15分の時間制限を順守してください。
- 発表は10分、付随する質疑が5分間です。
- 発表はマイクロソフト・パワーポイントと互換性のあるソフトウェアを用いて準備してください。
- マッキントッシュユーザーの方は、ウィンドウズ PC での発表を想定してください。

ポスターセッションの発表者は、ご自身で印刷されたポスターを2016年11月6日（日）までに会議会場の参加者受付デスクまでお持ち込みください。ポスターの規格は次ページの記載事項に準じてください。

- ポスターのサイズは A1 (594mm x 841mm) でポートレート配置としてください。
- ビューワーによくわかるようにポスターのタイトルをトップに目立つよう配置してください。
- あなたのポスターに関心を持った人がより詳しい情報を求めてコンタクトできるように、著者名と連絡先(Eメールアドレス)を明記し、ポスターを明瞭で順序良く十分に説明できているよう構成してください。
- ポスターはアブストラクトと同一の内容をカバーする必要があります。各要素に1、2、3あるいはA、B、C等のラベル振りをしてください。ビューワーがフォローしやすくなります。研究のバックグラウンド、つづいて結果・結論を記述してください。
- ポスターの成功は、関心のある聴衆にいかとうまく情報を伝えるかにかかっています。図表はきれいに読みやすく準備し、1.5mの距離から十分に読める大きさにしてください。
- フォントサイズは最小の高さ2.5cm以上を推奨します。（例えば、タイトル60ポイント、見出し30ポイント、最小フォントサイズは18ポイント）工夫していろいろと違うフォントサイズを使ってください。色を付けたり、すべてのテキストをダブルスペースにしてみるのも良い試みです。
- 図表中のそれぞれのラインやバーを色分けすると見やすくなります。
- 可能であればテキストの代わりにグラフィックスを多くしてください。長文は避けたほうが良いでしょう。図や写真の解像度は300dpi以上を推奨します。

XVI. エキシビション

エキシビションは11月8日（火）～10日（木）の3日間、ディスカバリー・カルティカ・ホテルプラザの Discovery Room（参照：下記図）にて催されます。
展示ブースの設営は7日（月）の10:00以降となります。



XVII. プログラム委員会

第 16 回世界湖沼会議プログラム委員会は、科学プログラム委員会および現地運営委員会から構成されています。各委員会の編成は以下の通りです：

A. インドネシア科学アドバイザー委員会

委員長 : Gadis Sri Haryani
委員 : Hery Harjono
Robert Delinom
Hidayat Pawitan
福島 武彦 [日本]
河野 泰之 [日本]
中野 伸一 [日本]
Sucharit Koontanakulvong [タイ]
Wan Maznah [マレーシア]
Kwansue Jung [韓国]
I Wayan Arthana
I Nyoman Sunarta
Tri Widiyanto
Ignatius D.A. Sutapa
Tri Retnaningsih Soeprbowati
Theo Ebbbers [ドイツ]
I Nyoman Suryadiputra
Hidayat
Apip
Cynthia Henny
Syahroma Husni Nasution
Lukman
Jojok Sudarso
Nofdianto
Yustiawati
Tjandra Chrismadha
M. Fakhrudin
Sulastri
Djamhuriyah S. Said
Eko Harsono
Hendro Wibowo
Hafrijal Syandri
Henderite Ohee

B. ILEC 科学委員会

委員長 : Walter Rast [アメリカ]
前委員長 : 中村 正久 [日本]
委員 : Sandra Azevedo [ブラジル]
Salif Diop [セネガル]
Zhengyu Hu [中国]
Daniel Olago [ケニア]
Ajit Kumar Pattnaik [インド]
Adelina Santos-Borja [フィリピン]
清水 芳久 [日本]
Juan Skinner [グアテマラ]
渡邊 紹裕 [日本]

C. 現地運営委員会

委員長 : Hermono Sigit
Fauzan Ali
Imam Santoso
副委員長 : Luki Subehi
Bob A. Lombogia
Djadid
事務局長 : Ivana Yuniarti
萩原 康江 [日本]
委員 : Sekar Larashati
Gunawan Pratama Yoga
Syamsuhari
Hadiid Agita Rustini
Inge Retnowati
Ali Cahyadi
Yovita Lambang Isti
Miratul Maghfiroh
Octavianto Samir
Aan Dianto



発行元：インドネシア共和国環境林業省



日本語版作成：公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）